

令和6年1月11日

長与町議会議長 安藤克彦

研修報告書

長与町議会議員研修要綱第7条第2項の規定により、次のとおり公表します。

1. 研修名（主催者） 議会広報研修会（長崎県町村議会議長会）

○講演 「親しまれる広報誌を目指して」

講師 長崎新聞社編集局次長兼生活文化部長兼論説委員
榎屋 健 氏

2. 研 修 日 時 令和5年10月13日（金）14時00分～16時00分

3. 研 修 場 所 長崎県市町村会館（長崎市）

4. 研 修 目 的 議員の資質向上および議会の活性化に資するため

5. 所 見 （記載は議席番号順）

【堀 真 議員】

各市町村の広報誌を比較し、それぞれ読みやすさ・関心を惹きやすいデザインになっているか講師から講評をいただいた。

両方を兼ねるとなると結局はセンスの一言に尽きるので、これからもデザインの研さんに励みたい。トレンドを盛り込んだデザインができる・できないよりも、時代に取り残されずに常にアップデートする心構えがまずは最も大事だと考える。せっかく予算を出して発行しているので、長期的に市民のニーズを探りながら、傾向に沿った広報誌づくりを続けていきたい。

【岡田 義晴 議員】

広報誌の作り方、レイアウト等の基本について、本町を含む8町の広報誌（議会だより）を一つ一つ論評を頂き、さらにより良い改善策を各町ごとに示していただいた。また、印象に残ったコメントとして、写真を多く掲載している広報誌には著作権への配慮を、多色過多の広報誌には色の統一性を、本町の広報誌にも写真のトリミングを慎重に等々があった。

講師の榎屋氏による8町の広報誌の論評は、どれも本町の広報誌作りに大いに有用な示唆を与えていただいたものと感謝したい。併せて、今回の研修で他町の広報誌作りの取り組みを知ることができたことも大きな成果であったと感じている。次回の広報誌作りに今回の研修の成

果を生かせるよう、取り組んでいきたい。

【八木 亮三 議員】

長崎新聞社編集局次長である榎屋 健 氏による「議会だより」ブラッシュアップのための講演で、まずレイアウトなどデザインについての解説があり、その後、参加8町議会の議会だよりの講評を通してのアドバイス、そして質疑応答が行われました。

デザイン・構成に関しては、私が初めて議員・広報委員になった4年前の時点ですでに長与町議会だよりの完成度はかなり高く、それ以後も大きな変更は加えずにきていること、そして広報委員はこの4年間でも同様の研修を何度か受けていることから、個人的には現在の長与町議会広報広聴常任委員会の議会だよりづくりの方向性に間違いがないことの再確認のような意味合いで聞いていましたが、新人議員にとっては編集の方法論を初めて聞く機会として重要なものだったのではないかと思います。

各町の議会だよりの講評においては、長与町議会だより「みんなの議会」（186号）について、表紙・紙面ともにデザインが優れていると評していただだけ、見やすさを維持しながらも余白や遊びを取り入れ、斬新でいて奇抜過ぎないバランスに苦労して作成しデザインしたことが評価していただけたと、素直に嬉しく感じました。今後も、守り過ぎず攻め過ぎない、個性は出しつつ見やすさを忘れない、そのような紙面づくりを行っていききたいと思います。

一般質問について、答弁の文字が薄く見えるということで、確かに、質問の方の文とは文字の太さだけでなくフォントも変えていて、個人的に統一感がないと感じていた部分でありましたので、次号の編集にあたっては何パターンかの改善案を用意し、より見やすく違和感のないものに変更したいと思います。

【松林 敏 議員】

研修は二部構成で行われ、前半は、今回の講師の先生は長崎新聞社の方であったので、議会広報誌に限らず読み物全般のレイアウトの基本的な考え方を学びました。今回、特に色使いについての話が印象的でした。高齢者や色覚弱者の方がどのように見えているのかを今まであまり意識したことがなかったので、本町の議会だよりも色相や補色などを意識して広報誌づくりに取り組みなくてはと考えました。また、写真の構図についての話も興味深く、議会だよりに限らず普段の写真撮影でも使えるテクニックを教えてくださいました。

後半は、参加した8町の議会だよりについて寸評を頂きました。本町の議会だよりについての寸評は、おそらく8町の中では1番の評価を頂いたみたいで、特に修正点等の指摘がありませんでした。

本町以外の議会だよりへの寸評で、住民参加の記事の評価が高いように感じたので、本町の議会だよりでも、何かしら住民参加の記事の検討をしていければと思いました。

【浦川 圭一 議員】

「親しまれる広報誌を目指して—レイアウト等の基本について」について、広報誌を作る場合の基本ポイントとして、必要な余白とか、統一感、メリハリ等、また、フォント、色づかい文字の配置など指導いただいた。

その後、県内8町の議会だよりが示され、それぞれに寸評が述べられ、本町の「みんなの議

会」についても、見やすい、構成も良いなど高評価でした。私自身見慣れているせいかもしれませんが、一番見やすいと感じました。

今後も、今の基本を守りながら編集ができればよいと思いました。

【安部 都 議員】

「親しまれる広報誌を目指して」と題して、榎屋 健 氏からご教授いただきました。

まずは、議会だよりの①レイアウト②レイアウトの基本ポイント③レイアウトの大事なエッセンス④各広報誌寸評の順番でご説明があり、最後に質疑応答が30分程で終了しました。

レイアウトでは、テーマ・写真・デザインなど目に留まるわかりやすさ readability(可読性)等を重視し、何を伝えたいのか、テクニックの目的をはっきりすること。ハートのこもった企画や自らの努力が伝わる内容が重要だとおっしゃいました。スティーブ・ジョブズの「神は細部に宿る」のことわざを引用し、一つ一つにこだわり、中心に取り組みの質を高めること。また、文字の種類、色の使いやすさ、高齢者や色弱者の人のことも考慮し、配色のトーンも大事にすることなども学ぶことができました。

今後の広報誌の参考にしながら、全ての方に配慮できる、読みやすい議会だよりの作成に取り組んでまいります。ありがとうございました。